



## 平成30年3月期 第3四半期決算短信〔日本基準〕（連結）

平成30年2月9日

上場会社名 株式会社KeyHolder 上場取引所 東  
 コード番号 4712 URL <http://www.keyholder.co.jp>  
 代表者 (役職名) 代表取締役社長 (氏名) 明珍 徹  
 問合せ先責任者 (役職名) 取締役 (氏名) 大出 悠史 TEL 03 (5843) 8888  
 四半期報告書提出予定日 平成30年2月13日 配当支払開始予定日 —  
 四半期決算補足説明資料作成の有無：無  
 四半期決算説明会開催の有無：無

(百万円未満切捨て)

### 1. 平成30年3月期第3四半期の連結業績（平成29年4月1日～平成29年12月31日）

(1) 連結経営成績（累計） (%表示は、対前年同四半期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		親会社株主に帰属する 四半期純利益	
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%
30年3月期第3四半期	13,878	△17.0	69	△88.9	25	△95.2	24	△89.9
29年3月期第3四半期	16,719	0.9	623	28.7	536	27.6	238	—

(注) 包括利益 30年3月期第3四半期 26百万円 (△89.2%) 29年3月期第3四半期 241百万円 (—%)

	1株当たり 四半期純利益	潜在株式調整後 1株当たり 四半期純利益
	円 銭	円 銭
30年3月期第3四半期	0.17	—
29年3月期第3四半期	1.71	—

### (2) 連結財政状態

	総資産	純資産	自己資本比率	1株当たり純資産
	百万円	百万円	%	円 銭
30年3月期第3四半期	22,113	9,601	43.4	68.88
29年3月期	21,771	9,714	44.6	69.69

(参考) 自己資本 30年3月期第3四半期 9,589百万円 29年3月期 9,703百万円

### 2. 配当の状況

	年間配当金				
	第1四半期末	第2四半期末	第3四半期末	期末	合計
	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭
29年3月期	—	0.00	—	1.00	1.00
30年3月期	—	0.00	—	—	—
30年3月期(予想)	—	—	—	1.00	1.00

(注) 直近に公表されている配当予想からの修正の有無：無

### 3. 平成30年3月期の連結業績予想（平成29年4月1日～平成30年3月31日）

(%表示は、対前期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		親会社株主に帰属 する当期純利益		1株当たり 当期純利益
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%	円 銭
通期	20,100	△10.1	260	△67.4	170	△75.3	1,050	398.8	7.54

(注) 直近に公表されている業績予想からの修正の有無：有

※ 連結業績予想の修正については、本日（平成30年2月9日）公表いたしました「通期連結業績予想の修正に関するお知らせ」をご覧ください。

※ 注記事項

(1) 当四半期連結累計期間における重要な子会社の異動（連結範囲の変更を伴う特定子会社の異動）：無  
新規 一社（社名）、除外 一社（社名）

(2) 四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用：有

(3) 会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示

- ① 会計基準等の改正に伴う会計方針の変更 : 無
- ② ①以外の会計方針の変更 : 無
- ③ 会計上の見積りの変更 : 無
- ④ 修正再表示 : 無

(4) 発行済株式数（普通株式）

① 期末発行済株式数（自己株式を含む）	30年3月期3Q	139,259,092株	29年3月期	139,259,092株
② 期末自己株式数	30年3月期3Q	25,836株	29年3月期	25,652株
③ 期中平均株式数（四半期累計）	30年3月期3Q	139,233,310株	29年3月期3Q	139,233,458株

※ 四半期決算短信は四半期レビューの対象外です

※ 業績予想の適切な利用に関する説明、その他特記事項

本資料に記載されている業績見通し等の将来に関する記述は、当社が現在入手している情報及び合理的であると判断する一定の前提に基づいており、その達成を当社として約束する趣旨のものではありません。また、実際の業績等は様々な要因により大きく異なる可能性があります。業績予想の前提となる条件及び業績予想のご利用にあたっての注意事項等については、添付資料P. 5「1. 当四半期決算に関する定性的情報（3）連結業績予想などの将来予測情報に関する説明」をご覧ください。

## ○添付資料の目次

1. 当四半期決算に関する定性的情報 .....	2
(1) 経営成績に関する説明 .....	2
(2) 財政状態に関する説明 .....	4
(3) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明 .....	5
2. 四半期連結財務諸表 .....	6
(1) 四半期連結貸借対照表 .....	6
(2) 四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書 .....	8
四半期連結損益計算書	
第3四半期連結累計期間 .....	8
四半期連結包括利益計算書	
第3四半期連結累計期間 .....	9
(3) 四半期連結財務諸表に関する注記事項 .....	10
(継続企業の前提に関する注記) .....	10
(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記) .....	10
(四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用) .....	10
(追加情報) .....	10
(セグメント情報等) .....	11
(重要な後発事象) .....	13

## 1. 当四半期決算に関する定性的情報

### (1) 経営成績に関する説明

当第3四半期連結累計期間におけるわが国経済は、各種政策の効果もあって、緩やかな回復基調にあるものの、海外経済の不確実性や金融資本市場の変動の影響に対する懸念などから、依然として先行きは不透明な状況となっております。

当社グループの主力事業である総合エンターテインメント事業が属する余暇市場におきましては、労働環境の改善による余暇時間の増加に伴い、市場への参加人口が回復傾向にあり、ゲームセンターなどの娯楽業でも復調傾向となっております。

また、当社グループの第2の主力事業である不動産事業が属する不動産市場におきましても、2020年を睨んだ様々な建築プロジェクトや住宅取得に係る各種税制措置が図られるなど、好材料が見受けられる一方で、直近の住宅着工件数の動向では市況の伸びが停滞しており、当社グループが属する各事業における市況環境においては引き続き注視が必要な状況となっております。

このような市場環境の中、総合エンターテインメント事業において、VRエンターテインメント施設の「VR PARK TOKYO」を、既存店であるサンシャイン店と狸小路店の一部フロアを改装して新たに開設したほか、コラボカフェやカラオケ等のコンテンツ部門において培ったリレーションを活かし、IPコンテンツを活用したVR機器の開発・提供を行うなど、各種取り組みを積極的に実施いたしました。

また、不動産事業及び商業施設建築事業においても、新規案件の取得や取扱い件数の増加による売上強化に努めました。

以上の結果、当第3四半期連結累計期間における業績は、売上高13,878百万円（前年同四半期比△17.0%）、営業利益69百万円（前年同四半期比△88.9%）、経常利益25百万円（前年同四半期比△95.2%）、親会社株主に帰属する四半期純利益24百万円（前年同四半期比△89.9%）となりました。

なお、平成30年1月23日付け「連結子会社（アドアーズ株式会社）の株式譲渡契約締結及び特別利益の発生に関するお知らせ」のとおり、当社グループとしまして、持株会社として機動的な事業再編やグループ全体の経営資源の最適配分を図ることでさらなる企業成長が望めるなど、新たな事業の柱の構築に向けた展開を積極的に図っていくという会社の方向性を実現するべく、平成30年2月27日開催予定の臨時株主総会において承認可決されることを条件として、当社の100%子会社であるアドアーズ株式会社の全株式を株式会社ワイドレジャーに譲渡する株式譲渡契約を締結いたしました。

セグメント別の業績は、次の通りであります。

## &lt;セグメント別概況&gt;

## 〔総合エンターテインメント事業〕

既存店舗においては、主力のメダルゲームやクレーンゲームにおける各種イベントを実施したほか、自社店舗向けに開発・提供を行ってきたアドアーズオリジナルのシングルメダルマシンがお客様からの評判もよく、新たに外販するべく、初めて社外でのロケテストを実現するなど、メダルゲームの活性化につながる取り組みを実施いたしました。

VRアトラクション常設型のVRエンターテインメント施設「VR PARK TOKYO」では、12月に既存店のサンシャイン店と狸小路店の一部フロアを改装し、相次いでVR店舗を開設したほか、引き続き新アトラクションの独自開発に努めました。さらに、コラボカフェやカラオケ等のコンテンツ部門において培ったリレーションを活かし、アドアーズオリジナルのVRコンテンツとして「おそ松さんVR」を作成・提供を開始するなど、IPコンテンツを活用した新たな取り組みを積極的に実施し、売上強化に努めました。

しかしながら、VR関連の初期投資等のほか、VR機器の販売及びレンタルが当初の計画から大幅に乖離している状況に加え、引き続き既存ゲーム店舗における集客の伸び悩みによる影響が重なり、売上・利益面共に軟調に推移いたしました。

以上の結果、売上高8,002百万円（前年同四半期比△22.4%）、セグメント利益314百万円（前年同四半期比△55.1%）となりました。

ご参考：平成30年3月期12月末時点における売上高前年比 ※

（単位：％）

	4月	5月	6月	第1Q	7月	8月	9月	第2Q	上半期
売上高前年比	84.3	86.8	89.4	86.8	83.6	92.6	93.1	89.6	88.2
	10月	11月	12月	第3Q	1月	2月	3月	第4Q	下半期
売上高前年比	89.6	98.8	98.5	95.6					

※ 総合エンターテインメント事業全体の実績を売上高前年比として記載しております。

また、前期と正しく比較するため、前期末に株式譲渡している株式会社ブレイクの実績を除外して算出しております。

当第3四半期連結累計期間における出店及び閉店の状況におきましては、平成29年4月に「アドアーズ西船橋店」と「アドアーズ一宮店」を閉店しており、当第3四半期決算短信発表時点における総店舗数は45店舗となります。

なお、平成29年12月に開設した「VR PARK TOKYO IKEBUKURO」及び「VR PARK TOKYO Satellite札幌狸小路×MEDIAFRONT JAPAN」は、既存店の一部を改装した店舗であるため、1店舗としてカウントしておりません。

[不動産事業]

(一戸建分譲部門)

営業拠点を拡大したことにより販売件数を順調に積み上げられたことで売上面では堅調に推移したものの、利益面では土地の仕入れ価格に加え、施工人件費等の高騰などの影響を受けて軟調に推移いたしました。

(不動産アセット部門)

保有不動産の安定した賃料収入により、堅調に推移いたしました。

以上の結果、売上高4,404百万円(前年同四半期比△6.2%)、セグメント利益223百万円(前年同四半期比△17.7%)となりました。

[商業施設建築事業]

引き続き得意とする設計案件を積極的に獲得したほか、施工案件において日本初進出の飲食店を含めた新規案件の獲得に努めた結果、売上・利益面共に堅調に推移いたしました。しかしながら、前期のような大型施工案件がなかったことにより、売上高1,318百万円(前年同四半期比△20.9%)、セグメント利益37百万円(前年同四半期比△37.0%)となりました。

[店舗サブリース事業]

引き続き株式会社オーリーブスパ(以下「オリスパ」といいます。)との連携による事業活動を行った結果、売上高139百万円(前年同四半期比+475.4%)、セグメント利益25百万円(前年同四半期はセグメント利益0百万円)となりました。

(2) 財政状態に関する分析

当第3四半期連結会計期間末の資産につきましては、前連結会計年度末に比べて341百万円増の22,113百万円となりました。これは主として借入等による現金及び預金の増加によるものであります。

負債につきましては、前連結会計年度末に比べ454百万円増の12,511百万円となりました。これは主として短期借入金の増加及び社債の発行によるものであります。

純資産につきましては、前連結会計年度末に比べ113百万円減の9,601百万円となりました。これは主として配当金の支払によるものであります。

この結果、自己資本比率は43.4%(前連結会計年度末は44.6%)となりました。

(3) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明

平成30年3月期通期連結業績において、平成30年1月23日付け「連結子会社（アドアーズ株式会社）の株式譲渡契約締結及び特別利益の発生に関するお知らせ」のとおり、1,211百万円（概算値）を関係会社株式売却益として特別利益に計上する見込みであるほか、平成30年1月26日付け「販売用不動産の譲渡に関するお知らせ」のとおり、営業利益に340百万円（概算値）を計上する見込みであります。

なお、通期連結業績予想につきましては、平成30年2月9日付け「通期連結業績予想の修正に関するお知らせ」のとおり、売上高20,100百万円、営業利益260百万円、経常利益170百万円、親会社株主に帰属する当期純利益1,050百万円を見込んでおります。

〔総合エンターテインメント事業〕

アドアーズが運営する店舗の強みである好立地を活かしたVRエンターテインメント施設「VR PARK TOKYO」の開設や、アドアーズオリジナルのVRコンテンツ「おそ松さんVR」などのコンテンツ力を最大限に活かした新サービスの提供により、既存ゲームに捉われない新たな取り組みを積極的に実施し、引き続き収益の強化に努めてまいります。

また、コンテンツ関連部門におきましては、引き続き人気アニメやゲームコンテンツおよびアーティストなどのコラボ企画を多数実施するだけでなく、コラボ企画によって培ったライセンサーとのリレーションとアドアーズが運営する駅前好立地の店舗を活用した、収益の拡大に努めてまいります。

なお、当該事業におきましては、平成30年1月23日付け「連結子会社（アドアーズ株式会社）の株式譲渡契約締結及び特別利益の発生に関するお知らせ」のとおり、平成30年2月27日開催予定の臨時株主総会において承認可決されることを条件に、平成30年3月26日を効力発生日として、当社グループの連結の範囲から除外されることとなります。

〔不動産事業〕

一戸建分譲部門におきましては、引き続き各拠点における営業力の強化により、事業の拡大を図ってまいります。

不動産アセット部門におきましては、引き続き運用・保有の両面にわたり収益不動産を手掛けると共に、新規物件の獲得により収益の拡大を図ってまいります。

〔商業施設建築事業〕

キーノート株式会社（以下「キーノート」といいます。）の強みであるデザイン力や営業ノウハウなどをさらに高めることで、新たな商業施設の設計・施工案件の獲得を積極的に図り、収益性の高い案件の獲得を目指してまいります。

〔店舗サブリース事業〕

キーノートによる不動産開発及び商業施設建築のノウハウを活かし、引き続きオリスパとの連携を密に図り、業容の拡大を目指してまいります。

なお、平成30年2月27日開催予定の臨時株主総会において承認可決されることを条件に、当社グループの主力事業である総合エンターテインメント事業を担うアドアーズ株式会社は連結の範囲から除外されることとなりますが、平成30年2月9日付け「定期建物賃貸借契約締結に関する覚書締結及び新たな事業（ライブ・エンタメ事業）開始の検討に関するお知らせ」及び「株式会社allfuz（オルファス）との業務提携に関する基本合意書締結のお知らせ」のとおり、事業再編へ向けた積極的な取り組みを強化しており、持株会社としての機能を果たすべく、引き続き当社グループの収益拡大及び企業価値の向上に努めてまいります。

## 2. 四半期連結財務諸表

## (1) 四半期連結貸借対照表

(単位：千円)

	前連結会計年度 (平成29年3月31日)	当第3四半期連結会計期間 (平成29年12月31日)
資産の部		
流動資産		
現金及び預金	5,593,472	5,794,122
受取手形及び売掛金等	202,771	201,201
未成工事支出金	122,995	378
リース投資資産	237,294	226,818
販売用不動産	3,059,035	3,736,751
仕掛販売用不動産	1,435,845	2,630,972
商品	2,039	17,804
貯蔵品	144,086	128,431
前払費用	558,423	565,827
未収入金	113,302	70,995
前渡金	47,082	26,250
繰延税金資産	113,416	113,175
その他	119,276	189,229
貸倒引当金	△20,000	—
流動資産合計	11,729,041	13,701,960
固定資産		
有形固定資産		
アミューズメント施設機器(純額)	901,339	1,001,521
建物及び構築物(純額)	1,984,752	1,298,314
工具、器具及び備品(純額)	45,024	42,973
機械装置及び運搬具(純額)	845	581
リース資産(純額)	1,635	6,457
土地	152,875	151
建設仮勘定	2,503	15,701
有形固定資産合計	3,088,977	2,365,701
無形固定資産		
借地権	1,644,763	740,887
ソフトウェア	19,479	39,317
その他	607	78,407
無形固定資産合計	1,664,850	858,612
投資その他の資産		
投資有価証券	38,666	40,204
出資金	19,096	17,991
長期前払費用	127,984	59,164
敷金及び保証金	4,982,232	4,923,553
破産更生債権等	85,276	82,583
繰延税金資産	10,702	23,784
その他	145,640	171,185
貸倒引当金	△121,018	△131,572
投資その他の資産合計	5,288,580	5,186,894
固定資産合計	10,042,408	8,411,208
資産合計	21,771,449	22,113,169



(単位：千円)

	前連結会計年度 (平成29年3月31日)	当第3四半期連結会計期間 (平成29年12月31日)
<b>負債の部</b>		
流動負債		
支払手形及び買掛金等	713,333	910,184
短期借入金	369,162	760,000
1年内返済予定の長期借入金	2,329,024	1,864,547
1年内償還予定の社債	111,760	191,760
未払金	952,576	865,302
未払費用	63,881	63,359
未払法人税等	136,516	59,282
前受金	175,402	130,628
預り金	73,682	60,945
未成工事受入金	35,532	21,162
株主優待引当金	34,765	25,881
その他	39,109	29,883
流動負債合計	5,034,747	4,982,936
固定負債		
社債	493,240	717,360
長期借入金	4,969,735	5,363,143
長期未払金	267,845	178,393
預り保証金	450,660	445,584
資産除去債務	775,270	775,270
繰延税金負債	50,928	44,096
その他	14,508	4,999
固定負債合計	7,022,189	7,528,847
負債合計	12,056,937	12,511,784
純資産の部		
株主資本		
資本金	4,405,000	4,405,000
資本剰余金	4,393,440	4,393,440
利益剰余金	901,095	786,002
自己株式	△2,877	△2,899
株主資本合計	9,696,657	9,581,543
その他の包括利益累計額		
その他有価証券評価差額金	6,354	8,341
その他の包括利益累計額合計	6,354	8,341
新株予約権	11,500	11,500
純資産合計	9,714,512	9,601,384
負債純資産合計	21,771,449	22,113,169

## (2) 四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書

(四半期連結損益計算書)

(第3四半期連結累計期間)

(単位：千円)

	前第3四半期連結累計期間 (自平成28年4月1日 至平成28年12月31日)	当第3四半期連結累計期間 (自平成29年4月1日 至平成29年12月31日)
売上高	16,719,937	13,878,428
売上原価	14,292,976	12,133,553
売上総利益	2,426,960	1,744,875
販売費及び一般管理費	1,803,190	1,675,476
営業利益	623,769	69,398
営業外収益		
受取利息	1,506	1,801
受取配当金	1,011	1,101
広告協賛金	41,107	45,717
その他	31,832	34,069
営業外収益合計	75,458	82,690
営業外費用		
支払利息	109,102	97,580
その他	53,890	28,777
営業外費用合計	162,992	126,357
経常利益	536,235	25,731
特別利益		
固定資産売却益	19,155	492
投資有価証券売却益	121,732	1,264
受取和解金	—	45,000
特別利益合計	140,888	46,757
特別損失		
固定資産売却損	17,122	20,731
固定資産除却損	1,211	9,352
減損損失	3,996	—
投資有価証券評価損	298,256	—
その他	21,474	4,280
特別損失合計	342,060	34,364
税金等調整前四半期純利益	335,063	38,124
法人税等	96,735	13,983
四半期純利益	238,328	24,141
非支配株主に帰属する四半期純利益	—	—
親会社株主に帰属する四半期純利益	238,328	24,141

(四半期連結包括利益計算書)  
(第3四半期連結累計期間)

(単位：千円)

	前第3四半期連結累計期間 (自 平成28年4月1日 至 平成28年12月31日)	当第3四半期連結累計期間 (自 平成29年4月1日 至 平成29年12月31日)
四半期純利益	238,328	24,141
その他の包括利益		
その他有価証券評価差額金	1,319	1,986
為替換算調整勘定	1,547	—
その他の包括利益合計	2,867	1,986
四半期包括利益	241,195	26,127
(内訳)		
親会社株主に係る四半期包括利益	241,195	26,127

(3) 四半期連結財務諸表に関する注記事項

(継続企業の前提に関する注記)

該当事項はありません。

(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)

該当事項はありません。

(四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用)

税金費用については、当第3四半期連結会計期間を含む連結会計年度の税金等調整前当期純利益に対する税効果会計適用後の実効税率を合理的に見積り、税金等調整前四半期純利益に当該見積実効税率を乗じて計算しております。

なお、法人税等調整額は、法人税等を含めて表示しております。

(追加情報)

当第3四半期連結累計期間において、従来は有形固定資産の「建物及び構築物」、「土地」及び無形固定資産の「借地権」に含めていた不動産の一部について保有目的を変更したため、1,638,579千円をたな卸資産の「販売用不動産」に振替えております。

(セグメント情報等)

## 【セグメント情報】

I 前第3四半期連結累計期間(自平成28年4月1日至平成28年12月31日)

## 1. 報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

(単位:千円)

	報告セグメント					その他 (注) 1	合計	調整額 (注) 2	四半期連結損 益計算書計上 額(注) 3
	総合エンター テインメント 事業	不動産事業	商業施設建築 事業	店舗サブリー ス事業	計				
売上高									
外部顧 客への 売上高	10,312,844	4,696,305	1,667,208	24,197	16,700,556	19,381	16,719,937	—	16,719,937
セグメ ント間 の内部 売上高 又は振 替高	—	—	166,753	—	166,753	—	166,753	△166,753	—
計	10,312,844	4,696,305	1,833,962	24,197	16,867,309	19,381	16,886,690	△166,753	16,719,937
セグメン ト利益	701,928	272,015	59,974	642	1,034,561	5,095	1,039,656	△415,886	623,769

- (注) 1. 「その他」の区分は報告セグメントに含まれない事業セグメントであり、パチスロ機周辺機器レンタル事業・ゴルフ事業等であります。
2. セグメント利益の調整額△415,886千円は、主として各報告セグメントに配分していない全社費用であります。全社費用は、主に報告セグメントに帰属しない一般管理費であります。
3. セグメント利益は、四半期連結損益計算書の営業利益と調整を行っております。
4. 第1四半期連結会計期間より、報告セグメント「店舗サブリース事業」を新たに追加しております。

## 2. 報告セグメントごとの固定資産の減損損失又はのれん等に関する情報

(固定資産に係る重要な減損損失)

当第3四半期連結累計期間に、「総合エンターテインメント事業」セグメントにおいて3,996千円の減損損失を計上しました。

## Ⅱ 当第3四半期連結累計期間(自平成29年4月1日至平成29年12月31日)

## 1. 報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

(単位:千円)

	報告セグメント					その他 (注) 1	合計	調整額 (注) 2	四半期連結損 益計算書計上 額(注) 3
	総合エンター テインメント 事業	不動産事業	商業施設建築 事業	店舗サブリー ス事業	計				
売上高									
外部顧 客への 売上高	8,002,246	4,404,541	1,318,100	139,239	13,864,127	14,301	13,878,428	—	13,878,428
セグメン ト間の 内部 売上高 又は振 替高	—	30,450	1,696	—	32,146	—	32,146	△32,146	—
計	8,002,246	4,434,991	1,319,796	139,239	13,896,273	14,301	13,910,575	△32,146	13,878,428
セグメン ト利益又 は損失 (△)	314,871	223,895	37,813	25,399	601,979	△4,590	597,388	△527,990	69,398

(注) 1. 「その他」の区分は報告セグメントに含まれない事業セグメントであり、外貨両替事業であります。

2. セグメント利益又は損失(△)の調整額△527,990千円は、主として各報告セグメントに配分していない全社費用であります。全社費用は、主に報告セグメントに帰属しない一般管理費であります。

3. セグメント利益又は損失(△)は、四半期連結損益計算書の営業利益と調整を行っております。

## (重要な後発事象)

## (重要な子会社等の株式の売却)

平成30年1月23日開催の当社取締役会において、アドアーズ株式会社（以下、「アドアーズ」といいます。）の全株式を、株式会社ワイドレジャー（以下、「ワイドレジャー」といいます。）に譲渡すること（以下、「本件株式譲渡」といいます。）を決議し、株式譲渡契約を締結いたしました。

## 1. 株式譲渡の理由

当社は平成29年10月1日から、当社グループの企業成長を早期に実現するため、持株会社体制へ移行いたしました。これに伴い、当社商号を株式会社KeyHolderに変更するとともに、当社グループの主力事業のひとつである総合エンターテインメント事業を承継するアドアーズ分割準備株式会社がアドアーズの商号を承継し、引き続き多様化する遊びのニーズの変化に合わせ、ゲームのみならず、カラオケやコラボカフェ、最近ではVRなど様々なエンターテインメント施設の運営やサービスの提供を行う総合エンターテインメント企業として、当社の100%子会社となりました。

このような中、アミューズメント施設やリラクゼーション施設を運営するワイドレジャーから本件株式譲渡の提案があったことから検討を進めてまいりました。

その結果、当社は持株会社として機動的な事業再編やグループ全体の経営資源の最適配分を図ることで新たな企業成長が望めるなど、双方の目指す方向性に有効であると判断したため、譲渡することを決定いたしました。

## 2. 譲渡する相手会社の名称

株式会社ワイドレジャー

## 3. 譲渡の時期

平成30年3月26日（予定）

本件株式譲渡につきましては、会社法第467条に基づき、株主総会において特別決議が承認可決されることを条件としております。

## 4. 当該子会社等の名称、事業内容及び会社との取引内容

名称 アドアーズ株式会社

事業内容 総合エンターテインメント事業、その他の事業(外貨両替所事業)

当社との取引内容 当該子会社との間で管理部門における業務委託を受託しております。

## 5. 譲渡する株式の数、譲渡価額、譲渡損益及び譲渡後の持分比率

譲渡する株式の数 2,000株（所有割合 100%）

譲渡価額 4,500百万円

譲渡損益 個別業績において1,120百万円、連結業績において1,211百万円（概算値）の関係会社株式売却益（特別利益）をそれぞれ計上する見込みであります。

譲渡後の持分比率 ー%

## (重要な資産の譲渡)

平成30年1月26日の当社取締役会において、販売用不動産を譲渡することを決議し、売買契約を締結いたしました。

## 1. 譲渡の理由

当社は、足元の不動産市況を鑑み、経営資源の効率的活用の観点から、販売用不動産を譲渡することといたしました。

## 2. 譲渡する相手会社の名称

譲渡先につきましては、譲渡先との守秘義務契約により、公表を控えさせていただきます。なお、当社グループと譲渡先の間には、資本関係、人的関係、関連当事者としての特記すべき事項はありません。

## 3. 譲渡資産の種類、譲渡前の用途

資産の所在地 東京都新宿区高田馬場三丁目600番7号

資産の内容 土地面積 604.03㎡ (182.71坪)

建物面積 2,889.61㎡ (874.10坪)

譲渡前の用途 賃貸事務所

## 4. 譲渡の時期

平成30年3月（予定）

## 5. 譲渡価額

譲渡価額につきましては、譲渡先との守秘義務契約により、公表は控えさせていただきますが、当該事象の発生により、個別業績及び連結業績において、営業利益に340百万円（概算値）を計上する見込みであります。